

会議名	第3回学校運営協議会 議事録		
場 所	大阪府立すながわ高等支援学校2階 会議室		
日 時	令和8年1月30日（金） 14：00～15：30		
目 的	学校運営協議会は、保護者等との連携協力、学校運営の方針についての協議及び承認、保護者等の意向の反映のために設置する、大阪府教育庁の附属機関である。		
次 第	(1) 校長あいさつ (2) 協議及び報告 「令和7年度学校経営計画について」（自己評価） ・学校教育自己診断アンケート ・授業アンケート集計結果について 「就労に関するアンケートについて」（1年め） 「令和8年度学校経営計画（案）について」 (3) 意見交換 まとめ (4) 校長挨拶		
学校運営協議会	会 長	四天王寺大学教育学部教育学科教授	土口 千恵子 様
	副会長	株式会社カネシン オートボックス顧問	辻 昭宏 様
	委 員	泉州中障害者就業・生活支援センター センター長	齊喜 祐輔 様
	委 員	株式会社サクセス 自立支援推進室長	河本 妙子 様
	委 員	泉南市 行政経営部 危機管理課 課長	小原 成裕 様
	委 員	すながわ高等支援学校PTA会長	二家本 英生 様
	校 長	すながわ高等支援学校長	加納 由朗
		すながわ高等支援学校事務局	9名

## 会 議 内 容

要約 令和7年度学校経営計画についての自己評価と学校教育自己診断アンケート、授業アンケート集計結果、就労に関するアンケートの報告、令和8年度学校経営計画（案）について、各立場から実りのある意見交換がなされた。

### 協議テーマについてのご質問・ご意見

○令和7年度学校経営計画の自己評価では、コロナ禍以降、校外での開催を中止していた「すながわ展」を再開したこと、教員間交流として今年度はじめて信達中学校と交流を実施したことについて報告があった。今後も継続して取り組んでいくことを共有した。

本校教職員の特別支援学校免許の保有率については今年度67.4%であり、支援の専門性向上の観点より次年度以降は70%を超えられるよう周知していくことを共有した。

令和7年卒業の9期生の卒業後1年間の職場定着率については、96%と高く、今後も継続していきたいと情報を共有することができた。

○学校教育自己診断のアンケートでは、保護者の回収率が62%と伸び悩んでいるという報告があった。委員の方からは、学校と保護者とのかかわり方が希薄になってきているのではないかとのご意見をいただいた。今後も継続して保護者の方からの回収率を上げる取り組みが必要であると確認することができた。

生徒からのアンケートでは、「わからない」の回答数が多い項目が気になると、ご指摘をいただいた。企業の立場からすると、否定的な回答以上に、「わからない」という回答は無視できないととらえているため、学校としても今後、なぜそのような回答となったのか考察していく必要があるのではないかとのご意見をいただいた。また教員からのアンケートにおいても「わからない」という回答を重要視する必要があり、学校全体として、今後どのような学校にしていきたいかなどの情報共有の大切さを確認することができた。また委員の方より、仕事はマンパワーに頼ることが多いので、一部の教員に業務が偏らないよう、働き方改革についても教員の負担の軽減になる方法はないかとご意見をいただいた。

○授業アンケートについては全体的に生徒からは高い評価をうけていると報告があった。今後も生徒にあった質の高い授業をおこなっていくことで共有することができた。

○就労に関するアンケートでは、在校中から様々な外部機関のアセスメントを利用し、評価を得ることで、子どもたちの実態がより見えてくるのではないかとのご意見をいただいた。また現在は企業等への現場実習は皆、同じ時期に行っているが、他校でも取り入れているような、五月雨式に実習に行くようにしてはどうか？そうすることで、臨機応変に対応することができ、実習の幅が広がるのではないかとアドバイスをいただいた。これらたくさんのご意見を踏まえた上で、学校全体として、就労にむけて何を重要視するか？管理職も含めてベクトルを合わせていけたらよいのではないかと共有することができた。

○令和8年度学校経営計画（案）としては、コロナ禍以降、減ってしまった校外学習、徒歩学習などを再開し、楽しみながら就労に向けた体力づくりをめざしていきたいという提案がなされた。

○最後に、本校は知的障がいのある生徒が、就労を通じた社会的自立をめざす学校であり、めざす学校像はこれからも変わらない。そのことを全体で再確認し、共有することで今年度の会議を終えた。

次回開催日 令和8年6月予定

作成者 大阪府立すながわ高等支援学校 首席 後藤 禎行（令和8年2月5日作成）